Ｈ26年度第２回西脇市立西脇病院経営評価委員会　会議録

日　時　平成27年２月23日（月）
13:30～15:00
場　所　西脇病院　２Ｆ　講堂

１　開　会

経営管理課長：それではただいまから第２回西脇病院経営評価委員会を開会させていただきます。本日は大変お忙しいところ、御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

２　議事

経営管理課長：それでは、議事に入らせていただきます。お手元に本日の資料と、委員及び院内出席者の名簿を配布させていただいております。次第に基づき、西脇市立西脇病院改革プランの推進状況及び西脇市立西脇病院経営基本計画案について、御意見・御指導をお願いしたいと思います。それでは、具委員長よろしくお願いします。

具委員長：それでは、まず資料１「平成26年度の改革プランの推進状況」について事務局から説明をお願いします。

事務局長：（資料１を説明）

具委員長：ありがとうございました。平成26年度改革プランの推進状況の説明でしたが､よろしいでしょうか｡患者が減少する中で、最善を尽くされていると思います。しかし、なかなかプラス方向になっていないので、そこを議論しながら経営改善に持っていくのがこの委員会の目的です。
　委員から、御意見・御質問をお願いします。

具委員長：藤田委員、いかがでしょうか。

藤田委員：外来患者は横ばい、入院患者は減少する中で西脇病院はこの状況をどの様に考えていますか。また、医師数が減少していますが、どの診療科がなぜ減少したかの理由をお教え願います。

岩井委員：入院患者の減少については、昨年度、三木市、小野市の病院が合併して北播磨総合医療センターになるときに、入院患者数を減らした結果、逆に西脇病院の患者数が増加し、北播磨総合医療センターのオープン後は南から来る患者が減少しています。外来患者は、神経内科や眼科の医師の赴任により外来患者を維持している状況です。

　また、医師数が減少している理由としましては、特段の理由はありませんが、たまたま時期が重なったと考えています。内科系の医師が途中退職したため、３名の減となっています。

具委員長：病院長としては、目標患者数としてどのような数字を考えられていますか。

岩井委員：入院患者数が 275人、病床利用率で85％を想定しています。夏場は、患者数が少なく、冬が多くなっていますが、さらに上積みしたいと考えています。

具委員長：今回の進捗状況では、Ｃの評価項目が多くなっています。その理由として入院患者数を確保できなかったとの説明ですが、少ないままでは困りますので、病院長としてはどの様な対策を考えられていますか。

岩井委員：北播磨総合医療センターが脳卒中センターをオープンしたため、三木市、小野市からの脳神経外科の患者は望めませんが、今後10年は当地域の高齢者数は減少しないため、多可町や加東市の患者を積極的に受け入れていきたい。

具委員長：吉田委員から、御意見・御質問はございませんか。

吉田委員：全体的に患者数が下降傾向にありますが、2018年には県立柏原病院と柏原赤十字病院が合併します。丹波市南側の山南町の患者が合併後の病院に行くおそれがあります。病病連携というか西脇病院とのすみわけについて伺いたい。

具委員長：中期的な戦略をどの様に立てるかが重要になりますね。

岩井委員：丹波市には現在も県立柏原病院、柏原赤十字病院があり、内科系はほとんど影響がないと考えています。しかしながら、脳神経外科、特に脳卒中の患者さんが多く西脇病院に来院されています。合併後の病院が脳神経外科を充実すると西脇病院の患者が減ってくることが予想されます。また、現状では当院が他の病院

と差別化を図れる診療科は、血液内科や血液浄化の分野であると考えています。これらの患者を集めていくことや今後も高齢化率は高いままなので救急医療を拾い、圏域で確保していくことを考えています。

具委員長：地域医療に特化していくこととなるのでしょうが、12月末の経常収支が600万円、約1,000万円弱の黒字ですが、今後の政策目標としてまず経常黒字＋アルファに設定することとしてはいかがでしょうか。市としての御意見を伺いたいと思います。

吉田委員：この１月の政策ヒアリングで病院の収支状況について、市長とともに説明を受けました。２年前まで不良債務が発生していたために､資金が不足することを念頭に経営をしてきましたが、今回の公営企業法の会計制度の変更に伴い、資本が不足することとなりました。キャッシュ・フローとしては、資金が潤沢にあり経営的には問題がないけれども、企業債の借入や企業体として問題があるとのことから２億円の補助金を平成26年度補正予算に計上しています｡経営としてはうまくいっていると考えていますが、制度的な債務にも市長ともども、全面的な支援を行っていきたいと考えています。

具委員長：経営基盤も強化するところは強化していただき、経営的にも強い病院を作っていく必要があると思います。平成26年度の経常収支ではプラスマイナスゼロですが、当面これを最低限確保していくということで行政として御了解いただけますか。

吉田委員：給与費、材料費、経費などを抑えて、医師を締め付けすぎると結局うまくいかないと考えていますので、そこのところを御理解いただければと存じます。

具委員長：では、どうすればより良い効果が上がる病院になるとお考えでしょうか。西脇病院では、医療の質の向上に努められ、研修や資格の取得もコンスタントに維持されていますが、今後より積極的な研修計画をどの様に展開していこうとしているのでしょうか。

看護局長：委員長の質問の回答としては不十分ですが、看護局としてはがん関連の認定看護師の強化を図っていこうと考えています。昨年度の実績では３名です。

病院総務課長：看護局以外では、高齢者看護、災害救急エキスパー

トなど神戸大学の医師・コメディカル統合的人材育成拠点プログラムを活用するとともに、研修指導医の育成にも力を入れています。

岩井委員：今は急性期病院で進めているが、今後は地域包括医療制度についても並行して考えています。医師の育成も、現在はへき地医療拠点病院として県養成医を１名確保していますが、神戸大学からの研修医や後期研修医から選ばれる病院として、専門医のとれる病院にしたいと考えています。

具委員長：その他収益の確保として人間ドックや乳児・新生児健診及び妊婦健診がありますが、これらの収益はさらに上げていくことができないでしょうか。自由診療として全体に占める割合はどの様になっていますか。

経営管理課長：１日人間ドックで年間1,800万円、１泊人間ドックで600万円、脳ドックが800万円と合計3,200万円となっています。１日及び１泊人間ドックで500人を超えます。昨年度、受入枠などの見直しを行い、１日人間ドックが増加しています。通常診療をするなかで、業務を増やすのは難しいと思います。

具委員長：ニーズはありますか。

経営管理課長：現状では少し空いていることもあり、600人は受け入れることはできます。オプション検査と合わせて、がん検診でも収益を上げていきたい。昨年度3.0テスラＭＲＩの導入もあり、脳ドックも増加しています。

具委員長：専任の医師が説明もしていますか。

岩井委員：外来のない医師が口頭で説明をしている状況です。

小出副院長：内視鏡やエコーが増え、枠を増やすことは難しいと思う。

具委員長：人間ドックの内容チェックは、どこが担当していますか。

岩井委員：健診部でしています。枠組みや内容を検討しています。

具委員長：さらなるクォリティコントロールが必要ではないでしょうか。東京や大阪では、質を重視した高額の人間ドックを展開し、

高額所得者を対象に収益をあげている病院もあります。西脇病院でも、そこまではいかなくとも、それ相応の質の高い内容を提供していくことも可能ではないかと考えます。

具委員長：藤田委員から、他に御意見・御質問はございませんか。

藤田委員：地域連携パスが減少していますが、どうしてですか。

木村副院長：北播磨総合医療センターのオープンに伴い、南からの患者が減少しています。また、自宅復帰が増えていることも数値が上がらない原因のひとつです。

藤田委員：医師会としても、今後どの様に取り組めば良いか検討したい。

具委員長：現在、神戸大学の研修医は110人ですが、来年度は116人に増える予定です。全国的に医師が増えていく状況にあり、現在は医師が都市部に偏在していますが、近い将来、地域にも医師が増加する時代がやってくると思います。したがって、いかに良い医師を集めるかの議論が必要です。10年先を見越した人材確保を描きながら、進めてほしいと思います。

具委員長：それでは、次に資料２の西脇市立西脇病院経営基本計画案について、事務局から説明願います。

事務局長：（資料２を説明）

具委員長：ありがとうございました。資料２では、認知症の追加により、３疾病が４疾病となりました。西脇病院の診療の戦略イメージとしては、どのように考えていますか。

岩井委員：もともと加東市民病院に認知症疾患医療センターがありました。そこの医師の退職や西脇病院への異動に伴い、北播磨地域での認知症疾患医療センターを西脇病院が受けたものです。神経内科と精神科の医師２人で対応している状況です。業務が複雑で
長い時間を要するため、経営的には貢献はしていませんが、外来患者数はアップしています。いずれ地域に返していきたいと考えています。

事務局長：早期発見により、地域介護を増やしていけると考えてい

ます。認知症疾患医療センターの承認を８月に受けるものの、実際には10月１日のスタートなりました。12月末現在、88件で経営に寄与しているとは言い難い。国県補助金としては600万円弱です。

岩井委員：経営には寄与していませんが、疾患の多様性は病院の隠れたプラス要素になると考えています。

具委員長：23ページの経営指標について、説明願います。

経営管理課長：⑴経常収支比率とは、経常収益を経常費用で除して算出し、100％以上が健全であると言われます。⑵医業収支比率とは、医業収益を医業費用で除して算出し、100％以上が健全であると言われます。⑶給与費対医業収益比率、⑷材料費対医業収益比率及び⑸経費対医業収益比率は、給与費、材料費及び経費のそれぞれを医業収益で除して算出しています。給与費は50％に近づけたい。材料費もがん関係の材料費が上がっていますが、20％に抑えたい。経費も15％を超えた状況です。これらは医業収益が下がると各比率がアップするようになっています。

具委員長：その根拠について説明をお願いします。

経営管理課長：毎年、総務省に報告する決算統計により、自治体病院を比較しています。これは、黒字病院の平均的な数値です。西脇病院では、給与費に報酬や退職給付費を含んでいるため、50％を大きく超えていますが、これらを除くと50％近くまで下がってきます。

具委員長：22ページに研究発表・学会の主催とありますが、研究会、学会を主催されていますか。

岩井委員：学会等の主催はありませんが、北播磨地域で医療マネージメント学会を病院の持ち回りで開催しています。

看護局長：この地域で、はじめて地域医療看護研修センターを立ち上げ、職員研修の取組みを始めています。

具委員長：医師、看護師、技師、事務局が病院学会を主催するとモティベーションの向上につながり、ひいてはそれが西脇の地域医療の向上につながっていくものと思います。

これを持ちまして、今回の議事を終了させていただきます。

３　閉　会

経営管理課

長：委員の皆様には貴重な御意見、御指導をいただきありがとうございました。本日の御意見を踏まえながら、経営基本計画をもとに来年度の実施計画を策定し、その実現に向けて努力してまいります。

　委員におかれましては、今後とも御指導、御助言のほどよろしくお願い申し上げ、平成26年度第２回経営評価委員会を閉会させていただきます。ありがとうございました。

◎　出席委員（４名）

委員長　具　　英成　神戸大学大学院医学研究科教授（肝胆膵外科学分野）
委　員　藤田　　位　西脇市多可郡医師会長
委　員　吉田　孝司　西脇市副市長
委　員　岩井　正秀　西脇市立西脇病院長

○　出席職員

山口　俊昌　副院長
木村　　充　副院長
小出　　亮　副院長
角田　幸子　事務局長
内橋　生子　看護局長
小林　孝代　看護局次長
丸山　幸代　看護局次長
森田　　隆　薬剤部長
杉田　哲也　検査部長
神戸　　誠　放射線部長
前田　修平　リハビリテーション部長
長井　　健　病院総務課長
藤井　敬也　経営管理課長